

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人つばさ 西那須野事業所		
○保護者評価実施期間	令和7年1月31日 ～ 令和7年2月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47 (回答者数)	25
○従業者評価実施期間	令和7年1月31日 ～ 令和7年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	異年齢交流や子どもの特性に応じたさまざまな活動を設定し、成長を促している。	一つの活動を短い時間で設定し、子どもが集中できるようにスケジュールを立てている。活動においては、生活・運動・認知など幅広く取り組み、個々の発達に合わせた手法を取り入れることで楽しく参加できている。また、異年齢が交流することで自分の役割を考えながら主体的に行動する機会にもなっている。	異年齢の子どもたちが話し合いながら活動を企画したり、同じ興味を持っている子どもたちがクラブ活動をすることで、考える力や相手を思いやる心、柔軟な思考を育てていけるようにする。
2	日頃から、本人や保護者との意思疎通を図り、子育てに対する相談に対しては、保護者に寄り添った支援をおこなっている。	毎日、メールによる活動報告をおこない、また、送迎の際は事業所での様子を伝えている。トラブルについては状況を含め丁寧に説明し、対策等を伝えて改善に繋げている。 利用児だけでなく、兄弟の相談についても対応し、必要があれば関係機関の紹介などをおこなっている。	茶話会などを開催し、子育ての困り感を発信できる場を提供する。また、同じ悩みを抱える保護者同士の交流によって孤独にならず子育てができるようにする。
3	適切な支援を提供できるよう職員間でよく話し合い、支援の質向上や改善に努めている。	日々、打ち合わせや振り返りを徹底することで、協力体制を整え、チーム全体で統一した支援をおこなうことができるようにしている。また、部門研修・事業所内研修・法人研修・外部研修等を計画的におこない、支援の質向上に繋げている。	スーパーバイザーを交えて事例を検討することで問題を深掘りをする力をつけ、根幹の部分にアプローチできるようにする。 また、研修受講後においては、アウトプットすることで学びを積み重ねていけるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	特に屋外での活動スペースや個別の部屋の確保。	開所当時に比べ利用人数が増えているが、住宅街の立地であるためスペースの確保が容易ではない。 (対策としては、同法人の他事業所や地域の公園へ積極的に外出し、屋外活動の充実を図っている)	近隣の土地の確保ができたことで増築に至り、室内空間としては十分なスペースが確保できている。また、現在、庭の増築中であり、今後、屋外の遊び場が充実する。 個別の部屋の使用については、パーティションや空き部屋を使い対応している。
2	保護者の学びのプログラムや父母会の開催が少ない。	モニタリングや相談の中での個別サポートや、行事での保護者間交流はおこなえているが、感染症への配慮から父母会などの開催に躊躇がある。	感染対策に十分配慮しながら、茶話会やペアレント・トレーニングなどの家族支援をおこなっていく。 研修情報の提供により保護者の参加に繋がっているが、さらに積極的に案内をしていく。
3	事故防止マニュアルや感染症対応マニュアルなどの策定をおこない、保護者への周知もしているが、周知の仕方に工夫が必要。	HPやメール配信により保護者への周知をおこなっているが、確認いただけていない方が多い。	契約やモニタリングなど、保護者と直接お会いする機会に案内をし、周知徹底していく。